

12) 橋梁補修工

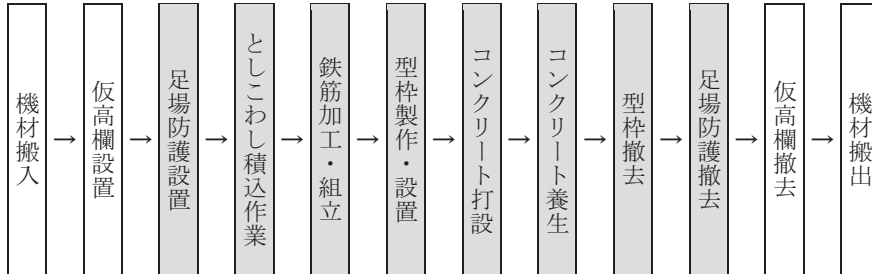
12)-1 橋梁地覆補修工

1. 適用範囲

本資料は、地覆コンクリートの撤去・復旧に適用し、旧高欄の撤去を含む。ただし、高欄の設置は含まない。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

図 2-1 施工フロー

3. 施工歩掛

3-1 とりこわし工

地覆コンクリートのとりこわし作業は、コンクリートブレーカによるものとし、歩掛は次表を標準とする。

表 3.1 とりこわし工施工歩掛 (10m³ 当り)

名称	規格	単位	数量
土木一般世話役		人	4.4
特殊作業員		〃	14.5
普通作業員		〃	13.6
コンクリートブレーカ損料	20kg 級	日	13.2
空気圧縮機運転	排出ガス対策型(第 2 次基準値) 可搬式エンジン 3.5~3.7m ³ /min	〃	6.6
諸雑費率		%	3

- (注) 1. 上表の歩掛には、旧高欄の撤去、鉄筋の切断、破砕片除去・集積及び運搬車の積込作業までを含む。
 2. とりこわし作業量には、高欄のコンクリート部分も含む。
 3. コンクリートブレーカは、2 台分の延日数である。
 4. 諸雑費は、コンクリートカッター、ハンドハンマ、チゼル、ホース、鉄筋切断機等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 5. 空気圧縮機は、賃料とする。

3-2 鉄筋工

鉄筋工は、鉄筋（径 9~25mm）の現場加工及び組立作業の歩掛は次表を標準とする。

表 3.2 鉄筋工歩掛 (1t 当り)

名称	単位	数量
土木一般世話役	人	1.3
鉄筋工	〃	5.2
普通作業員	〃	3.0
諸雑費率	%	2

- (注) 1. 普通鉄筋・異形鉄筋とも同一歩掛とする。
 2. 鉄筋の切断ロス等については、スクラップ控除しない。
 3. 諸雑費は、鉄筋加工機、切断機、結束線及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 4. 溶接作業が必要な場合は、別途計上する。

3-3 コンクリート工

コンクリート工は、人力による打設、型枠（側部及び底板部）の製作、設置・撤去、はく離剤塗布及び養生作業の歩掛は次表を標準とする。

表 3.3 コンクリート工歩掛 (10m³ 当り)

名称	規格	単位	数量
土木一般世話役		人	2.0
型枠工		〃	5.6
特殊作業員		〃	1.2
普通作業員		〃	6.7(6.2)
諸雑費率		%	11(10)

- (注) 1. 諸雑費は、型枠工の製作・設置に使用する、丸鋸、型枠用合板、桟木、洋釘、セパレータ、はく離剤等及びコンクリート打設・養生に必要なバイブレータ、水中ポンプ、養生マット及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 2. 養生工は、養生覆材の被覆、水散布養生程度のものとし、保温養生等の特別な養生を必要とする場合の歩掛は、() 書の値とし、その養生費用を別途計上する。

3-4 足場・防護工

足場の種類は、パイプ吊足場でシート等により防護を行うものに適用する。

足場・防護工費は、足場及び防護の設置・撤去の労務費及び器材の損料とし、次式により算定する。

$$\text{足場・防護工費} = \left[\left(\frac{SX1}{m} + 0.156y \right) \right] \times A$$

S : 損料係数 (表 3.4)

X1 : 足場を架設している総月数 (月)

m : 1 工事での足場使用回数 (回)

y : 橋梁特殊工単価 (円/人)

A : 足場面積 (m²)

$$A = W \times L$$

W : 足場必要幅 (m) (図-1 による)

L : 地覆補修延長 (m)

(注) 1. 損料係数 (S) は、表 3.4 による。

2. 使用回数 (回) は、工程等により決定するが、不明な場合は、表 3.5 による。

3. 足場の架設は、地覆の撤去・復旧作業に必要な幅の吊足場を設置し、鋼橋に片側朝顔の防護をする場合である。

これにより難しい場合は、別途考慮する。

4. 足場・防護工の日当り施工量は、31 (m²/日) を標準とする。

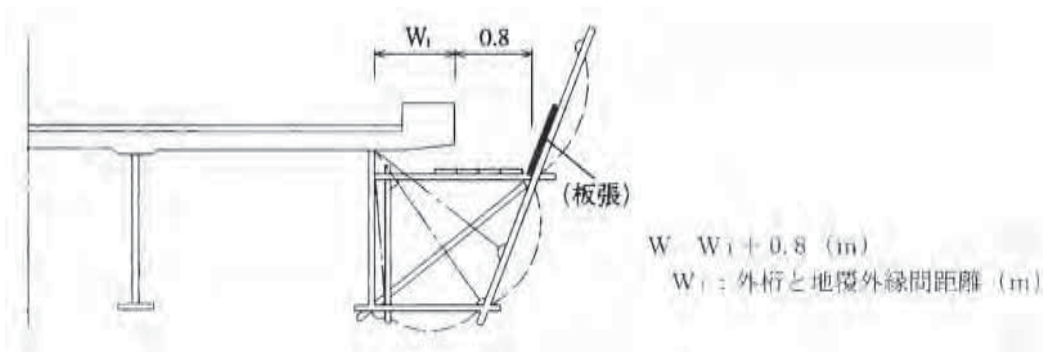
表 3.4 損料係数 (S)

防護種類	損料係数
シート	403
シート+板張	448

表 3.5 使用回数

施工条件	使用回数
片側施工	1
両側施工	2

図-1 足場・防護標準図



3-5 仮高欄設置・撤去工

仮高欄設置・撤去は別途計上する。

4. 材料使用量

鉄筋, コンクリートの使用量は, 次式による。

$$\text{使用量} = \text{設計量} \times (1 + K) \quad (\text{t 又は m}^3)$$

設計量 : t 又は m³

K : ロス率

ロス率 (K) の値は, 次表を標準とする。

表 4.1 ロス率 (K)

材料名	ロス率
鉄筋	+0.02
コンクリート	+0.05

5. 単価表

(1) とりこわし工 10m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	4.4	表 3.1
特殊作業員		〃	14.5	〃
普通作業員		〃	13.6	〃
コンクリートブレーカ損料	20kg 級	日	13.2	〃
空気圧縮機賃料	排出ガス対策型(第 2 次基準値) 可搬式エンジン 3.5~3.7m ³ /min	〃	6.6	〃
諸雑費		式	1	〃
計【S3030017】				

(2) 鉄筋工 1t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	1.3	表 3.2
鉄筋工		〃	5.2	〃
普通作業員		〃	3.0	〃
鉄筋	径〇〇mm	t	1.02	1t×(1+K) 表 4.1
諸雑費		式	1	表 3.2
計【S3030019】				

(3) コンクリート工 10m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	2.0	表 3.3
型枠工		〃	5.6	〃
特殊作業員		〃	1.2	〃
普通作業員		〃		〃
コンクリート		m ³	10.5	10m ³ ×(1+K) 表 4.1
諸雑費		式	1	表 3.3
計【S3030021】				

(4) 足場・防護工 1m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁特殊工		人	0.156	3-4
足場・防護材損料		月		〃
諸雑費		式	1	
計				

(5) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
空気圧縮機	排出ガス対策型(第 2 次基準値) 可搬式エンジン 3.5~3.7m ³ /min	機-16	燃料消費量 →31 賃料数量 →1.7

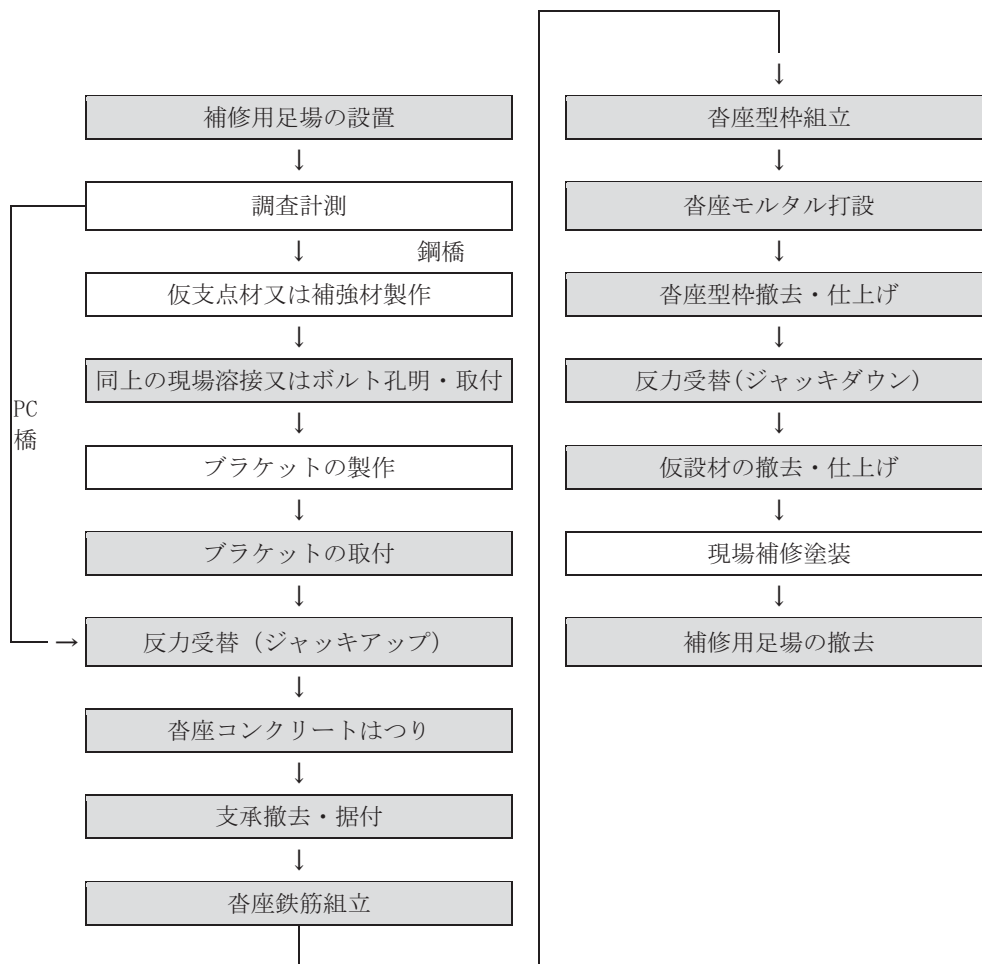
12)-2 橋梁補修工（支承取替工）

1. 適用範囲

本資料は、橋梁補修工のうち、鋼橋及び PC 橋の鋼製支承からの支承取替工に適用するものとし、RC 橋の支承取替には適用しないものとする。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

3. 施工歩掛

3-1 支承の分類

橋種及び新たに交換する支承の分類については、次表のとおりとする。なお、これにより難しい場合は別途考慮するものとする。

表 3.1 支承の分類

種類	鋼橋-鋼製支承			鋼橋-ゴム支承	PC 橋-ゴム支承
	I	II	III	IV	V
作用する反力 kN(t)	1471.0kN (150t)以下	1471.0kN(150t) を超え 2451.7kN(250t)以下	2451.7kN(250t) を超え 3138.1kN(320t)以下	1471.0kN (150t)以下	1961.3kN (200t)以下

3-2 支承取替工歩掛

支承取替工歩掛は、次表を標準とする。

表 3.2 支承取替工歩掛

(1 基当り)

名称	単位	鋼橋-鋼製支承			鋼橋-ゴム支承	PC 橋-ゴム支承
		I	II	III	IV	V
		1471.0kN (150t)以下	1471.0kN(150t) を超え 2451.7kN(250t)以下	2451.7kN(250t) を超え 3138.1kN(320t)以下	1471.0kN (150t)以下	1961.3kN (200t)以下
橋梁世話役	人	3.0	3.6	4.3	2.4	2.2
橋梁特殊工	〃	8.8	10.5	12.6	7.0	6.5
特殊作業員	〃	4.1	4.9	5.9	3.2	3.0
普通作業員	〃	2.8	3.4	4.0	2.2	2.1
諸雑費率	%	19	27		19	

(注) 1. 現場補修塗装は、別途計上するものとする。

2. 上記歩掛には仮置場又は運搬用トラックまでの設備搬を含む。

3. 諸雑費は、電力に関する経費、コンクリートブレーカ、ピックハンマ、電気溶接機、油圧ジャッキ、手動油圧ポンプ、ガス切断機、ディスクサンダ、電気ドリル、空気圧縮機の損料及び運転経費、鉄筋、型枠材、溶接棒、アンカー材、無収縮モルタル、チゼル等の材料費、損耗費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

3-3 現場条件による補正

支承の配置等現場条件により、表 3.2 のうち形式 II、III について支承取替工歩掛の労務を、次表により補正する。

表 3.3 現場条件による補正

現場条件	鉄桁	1 箱桁 2 脊	1 箱桁 1 脊
	補正係数	1.0	1.2

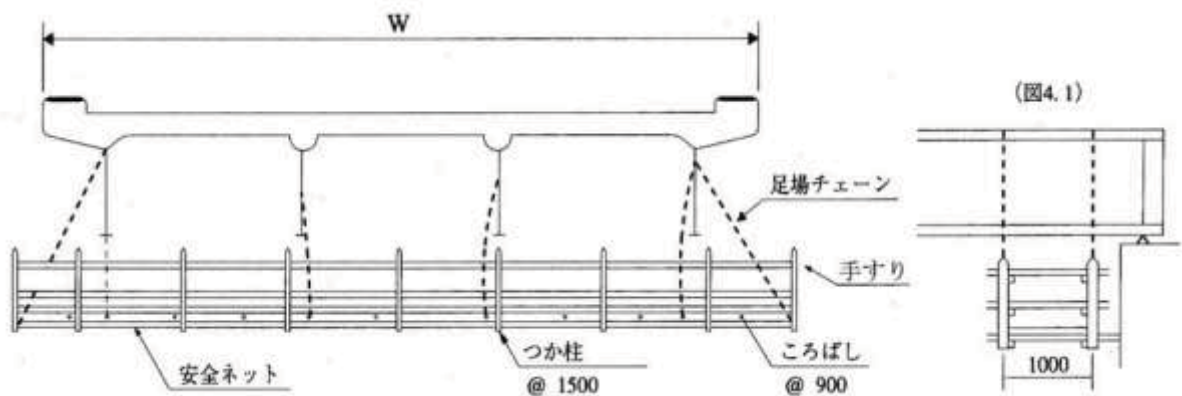
(注) 上記補正は形式 II (鋼橋-鋼製支承 1471.0kN (150t) を超え、2451.7kN (250t) 以下) 及び形式 III (鋼橋-鋼製支承 2451.7kN (250t) を超え 3138.1kN (320t) 以下) についてのみ適用する。

4. 足場工

4-1 支承取替工

支承取替工における足場工は、下図に示す橋脚回り足場を標準とし足場工費の算定は、次のとおりとする。
 なお、現場条件等により、これにより難しい場合は別途考慮するものとする。

図 4.1 橋脚回り足場



(1) 足場工費

足場工費の積算は次式による。

$$\text{足場工費} = (M + Sx + Ny) A \text{ (円)}$$

- M : 損耗係数 (表 4.1)
- S : 損料係数 (表 4.1)
- x : 足場供用日数 (日)
- N : 設置・撤去歩掛係数 (表 4.1)
- y : 橋梁特殊工単価 (円/人)
- A : 足場面積 (m²)

表 4.1 足場各係数

記号	M	S	N
係数	708	18	0.26

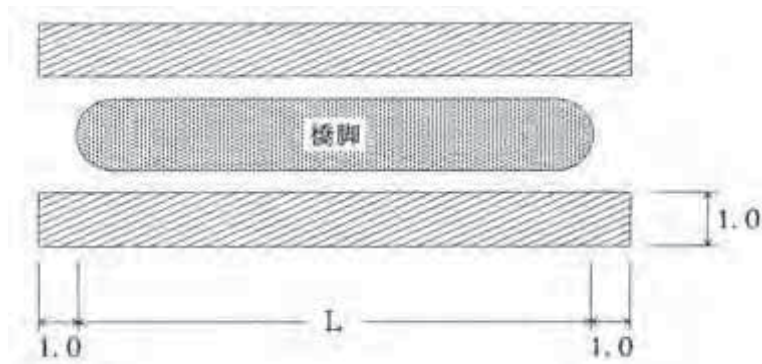
(2) 足場面積

足場面積は、現場条件、施工条件等を考慮して必要面積を算定するものとするが、一般には次により算定する。

$$\text{足場面積 } A = (L + 2) \times 1.0 \times 2 \times n$$

- L : 橋台及び橋脚の長さ (m)
- n : 橋台及び橋脚の数 (ただし、橋台の場合は 1/2 とする。)

図 4.2 足場面積



5. 単価表

(1) 支承取替 1 基当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人		表 3.2 (×表 3.3) 注
橋梁特殊工		〃		〃
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
支承材料		個	1	アンカーボルトを含む
諸雑費		式	1	表 3.2
計 【S2440】				

(注) () 書きは支承形式Ⅱ(鋼橋-鋼橋支承 1471.0kN (150t) を超え 2451.7kN (250t) 以下) 及び形式Ⅲ(鋼橋-鋼製支承 2451.7kN (250t) を超え 3138.1kN (320t) 以下) についてのみ適用する。

(2) 足場工 m2 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁特殊工		人		4. 足場工による。
足場損料		供用日		〃
足場損耗費		式	1	〃
諸雑費		〃	1	
計 【S2442】				

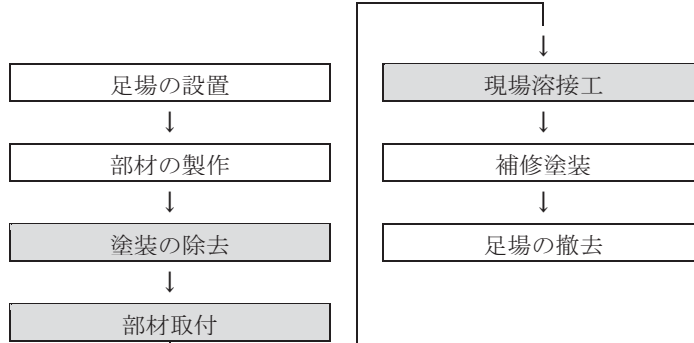
12)-3 橋梁補修工（現場溶接鋼桁補強工）

1. 適用範囲

本資料は、橋梁補修工のうち、桁補強を目的とする部材取付等の現場溶接作業に適用する。なお、亀裂補修は含まない。

2. 施工フロー

施工フローは、下記のとおりとする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

3. 施工歩掛

3-1 現場溶接鋼桁補強工歩掛

現場溶接鋼桁補強工歩掛は、次表を標準とする。

表 3.1 現場溶接鋼桁補強工歩掛（溶接延長 10m 当り）

名称	規格	単位	数量
橋梁世話役		人	0.7
橋梁特殊工		〃	2.9
諸雑費率		%	13

(注) 1. 本表の工法は、被覆アーク溶接によるものとする。

なお、本歩掛はビード仕上げを含んでいる。

2. 本歩掛は、すみ肉溶接の脚長が 6mm の場合を標準とするが、これ以外の場合は次式により溶接延長を算出する。

$$\text{溶接延長} = (S^2 \times L) / 36$$

S：脚長 (mm)

L：実溶接延長 (m)

3. 本歩掛に含まれる作業は、補剛材、ガセットプレート等の人力による取付であり、トラックレーン、ウィンチ、レバーブロック等の機械を使用して取付ける場合は別途計上する。

4. 取付部材の製作及び材料費は、別途計上する。

5. 諸雑費は、電力に関する経費、電気溶接機、ディスクグラインダの損料及び溶接棒の材料費の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

3-2 足場工歩掛

「第 II 編 第 5 章 9)-1 足場工」による。

4. 単価表

(1) 現場溶接鋼桁補強工 10m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人		表 3.1
橋梁特殊工		〃		〃
諸雑費		式	1	〃
計【S2444】				

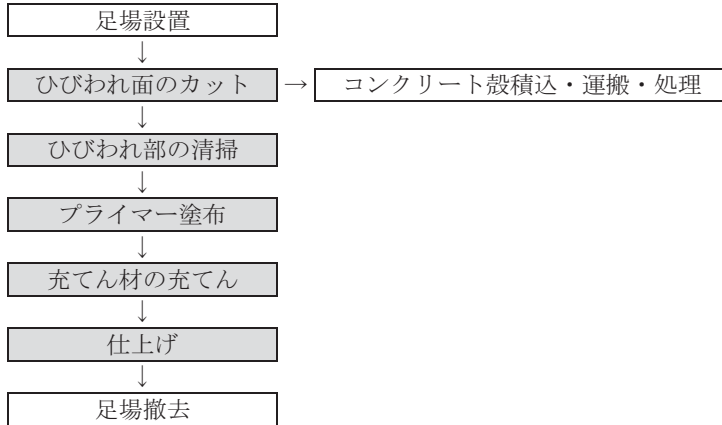
12)-4 橋梁補修工（ひび割れ補修工（充てん工法））

1. 適用範囲

本資料は、橋梁のひび割れ補修における 1 橋当りの充てん作業（ひび割れ延長 300m 以下）に適用する。

2. 施工概要

(1) 施工フロー



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

図 2-1 施工フロー

3. 編成人員

ひび割れ補修工（充てん工法）の編成人員は、次表を標準とする。

表 3.1 編成人員（人/橋）

土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
1	2	1

4. 施工歩掛

4-1 1 橋当り施工日数 [ひび割れ補修工（充てん工法）]

ひび割れ補修工（充てん工法）の 1 橋当り施工日数 (D) は次による。

$$D = 0.035 \times L + 0.63$$

D : 1 橋当り施工日数 (日/橋)

L : 1 橋当りの延べ施工量 (m/橋)

- (注) 1. 施工日数 D は少数第 3 位を四捨五入し、少数第 2 位止めとする。
 2. 歩掛は、全ての施工方向に適用できる。
 3. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。
 4. コンクリート殻の積込み・運搬及び処分費は別途計上する。
 5. 足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。

4-2 諸雑費

諸雑費は、各作業に必要な器具（サンダー等）、替え刃、プライマー材料費及び電力に関する費用等であり、労務費の合計額に次表の率を上限として計上する。

表 4.1 諸雑费率 (%)

諸雑费率	25
------	----

5. 単価表

(1) ひび割れ補修工（充てん工法）1 橋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	1×D	
特殊作業員		〃	2×D	
普通作業員		〃	1×D	
充てん材材料費		kg		必要量計上（注）
諸雑費		式	1	表 4. 1
計				

（注）1. D：1 橋当り施工日数（日/橋）

2. 必要量とは、材料ロス分を含む。

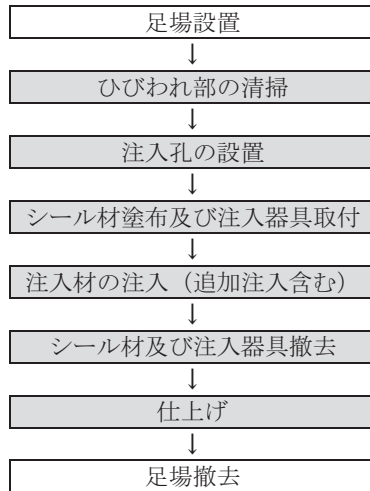
12)-5 橋梁補修工（ひび割れ補修工（低圧注入工法））

1. 適用範囲

本資料は、橋梁のひび割れ補修における 1 橋当りの低圧注入作業（ひび割れ延長 300m 以下、注入圧力 0.4MPa 以下）を行う場合に適用する。

2. 施工概要

(1) 施工フロー



(注) 1. 着色部分が適用範囲である。
 2. 注入器具の種類によって作業の順序が前後しても適用することができる。

図 2-1 施工フロー

3. 編成人員

ひび割れ補修工（低圧注入工法）の編成人員は、次表を標準とする。

表 3.1 編成人員（人/橋）

土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
1	2	1

4. 施工歩掛

4-1 1 橋当り施工日数 [ひび割れ補修工（低圧注入工法）]

ひび割れ補修工（低圧注入工法）の 1 橋当り施工日数 D は次による。

$$D = 0.060 \times L + 0.71$$

D : 1 橋当り施工日数 (日/橋)

L : 1 橋当りの延べ施工量 (m/橋)

(注) 1. 施工日数 D は少数第 3 位を四捨五入し、少数第 2 位止めとする。
 2. 歩掛は、全ての施工方向に適用できる。
 3. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。
 4. コンクリート殻の積込み・運搬及び処分費は、別途計上する。
 5. 足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。

4-2 諸雑費

諸雑費は、清掃、注入器具設置・撤去、シール材塗布及び撤去、注入材の注入及び仕上げに必要な器具等及び電力に関する費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた額を上限として計上する。

表 4.1 諸雑费率 (%)

諸雑费率	11
------	----

5. 単価表

(1) ひび割れ補修工（低圧注入工法）1 橋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	1×D	
特殊作業員		〃	2×D	
普通作業員		〃	1×D	
注入材		kg		必要量計上（注）
シール材		〃		必要量計上（注）
低圧注入器具		個		必要量計上（注）
諸雑費		式	1	表 4. 1
計				

- (注) 1. D : 1 橋当り施工日数 (日/橋)
 2. 必要量とは、材料ロス分を含む。

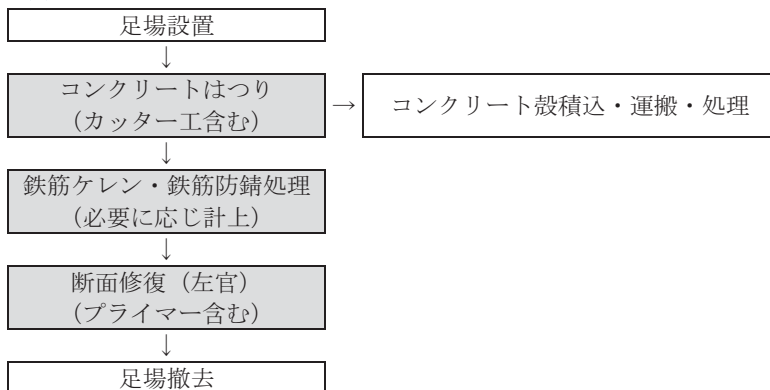
12)-6 橋梁補修工（断面修復工（左官工法））

1. 適用範囲

本資料は、橋梁の断面修復における 1 橋当りの左官作業（体積 1.5m³ 以下）に適用する。

2. 施工概要

(1) 施工フロー



(注) 着色部分が適用範囲である。

図 2-1 施工フロー

3. 編成人員

断面修復工（左官工法）の編成人員は、次表を標準とする。

表 3.1 編成人員（人/橋）

土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
1	2	1

4. 施工歩掛

4-1 1 橋当り施工日数（鉄筋ケレン・防錆処理を含む）

コンクリートはつり（カッター工含む），左官（プライマー・仕上げ含む），鉄筋ケレン・防錆処理を含む 1 橋当りの施工日数 D は次による。

$$D = 18.92 \times V + 1.48$$

D : 1 橋当り施工日数（日/橋）

V : 1 橋当りの延べ施工量（m3/橋）

4-2 1 橋当り施工日数（鉄筋ケレン・防錆処理を含まない）

鉄筋ケレン・防錆処理を含まない，コンクリートはつり（カッター工含む），左官（プライマー・仕上げ含む）の 1 橋当りの施工日数 D は次による。

$$D = 16.16 \times V + 1.28$$

D : 1 橋当り施工日数（日/橋）

V : 1 橋当りの延べ施工量（m3/橋）

- (注) 1. 施工日数 D は少数第 2 位を四捨五入し，少数第 1 位止めとする。
- 2. 歩掛は，全ての施工方向に適用できる。
- 3. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は，別途考慮する。
- 4. コンクリート殻の積込み・運搬及び処分費は別途計上する。
- 5. 足場等については，現場条件を考慮の上，別途計上する。

4-3 材料の使用量

断面修復材の使用量は，次式による。

$$\text{使用量} = \text{設計数量} \times (1 + K) \quad (\text{m}^3) \quad \dots \dots \text{式 4.1}$$

K : ロス率

表 4.1 ロス率 (K)

ロス率	+0.18
-----	-------

4-4 諸雑費

諸雑費は，カッター，はつり及び鉄筋ケレン作業に必要な器具（電動ピック，サンダー），替え刃，防錆処理・プライマー塗布作業に必要な器具・材料，左官作業に必要な器具，材料攪拌に関わる器具等及び電力に関する費用等であり，労務費の合計額に次表の率を乗じた額を上限として計上する。

表 4.2 諸雑费率 (%)

鉄筋ケレン・防錆処理を含む	18
鉄筋ケレン・防錆処理を含まない	15

5. 単価表

(1) 断面修復工（左官工法）1 橋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	1×D	
特殊作業員		〃	2×D	
普通作業員		〃	1×D	
断面修復材		m3		4-3（式 4.1）
諸雑費		式	1	表 4.2
計				

(注) D : 1 橋当り施工日数（日/橋）

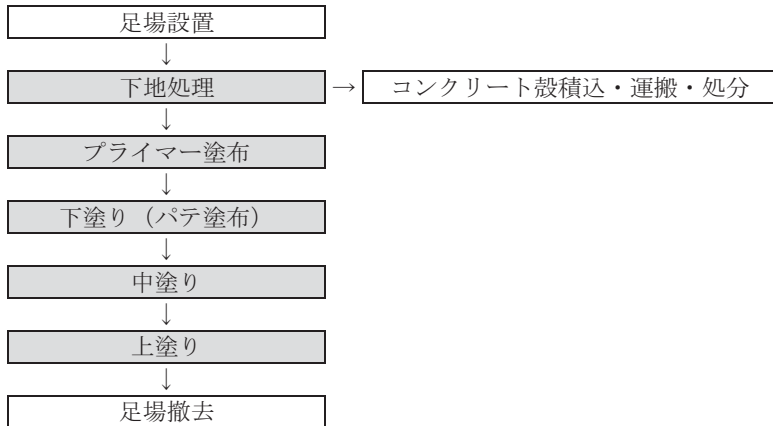
12)-7 橋梁補修工（表面被覆工（塗装工法））

1. 適用範囲

本資料は、橋梁補修のコンクリート面の表面被覆工（塗装工法）における 1 橋当りの塗装作業（仕上げ面積 2,000m² 以下）に適用する。ただし、新設時の塗装には適用しない。

2. 施工概要

(1) 施工フロー



(注) 着色部分が適用範囲である。

図 2-1 施工フロー

3. 編成人員

表面被覆工（塗装工法）の編成人員は、次表を標準とする。

表 3.1 編成人員（人/橋）

土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
1	2	1

4. 施工歩掛

4-1 1 橋当り施工日数 (下地処理)

下地処理 1 橋当りの施工日数 D は次による。

$$D = 0.0047 \times A + 0.37 \dots \dots \text{式 4.1}$$

D : 1 橋当り施工日数 (日/橋)

A : 1 橋当りの延べ施工量 (m²/橋)

4-2 1 橋当り施工日数 (プライマー塗布)

プライマー塗布 1 橋当りの施工日数 D は次による。

$$D = 0.0024 \times A + 0.25 \dots \dots \text{式 4.2}$$

D : 1 橋当り施工日数 (日/橋)

A : 1 橋当りの延べ施工量 (m²/橋)

4-3 1 橋当り施工日数 [下塗り (パテ塗布)]

下塗り (パテ) 塗布 1 橋当りの施工日数 D は次による。

$$D = 0.0052 \times A + 0.53 \dots \dots \text{式 4.3}$$

D : 1 橋当り施工日数 (日/橋)

A : 1 橋当りの延べ施工量 (m²/橋)

4-4 1 橋当り施工日数 (中塗り材塗布・上塗り材塗布)

中塗り材塗布・上塗り材塗布 1 層・1 橋当りの施工日数 D は次による。

$$D = 0.0096 \times A + 0.52 \dots \dots \text{式 4.4}$$

D : 1 橋当り施工日数 (日/橋)

A : 1 橋当りの延べ施工量 (m²/橋)

- (注) 1. 施工日数 D は少数第 3 位を四捨五入し、少数第 2 位止めとする。
 2. 歩掛は、全ての施工方向に適用できる。
 3. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。
 4. コンクリート殻の積込み・運搬及び処分費は別途計上する。
 5. 足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。
 6. 中塗り材・上塗り材を複数回塗布する場合は、回数分を計上する。

4-5 諸雑費

諸雑費は、各作業に必要な器具 (サンダー、刷毛、コテ等)、替え刃、材料攪拌に関わる器具等及び電力に関する費用等であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた額を上限として計上する。

表 4.1 諸雑費率 (%)

下地処理	22
プライマー塗布	6
下塗り (パテ) 塗布	6
中・上塗り材塗布	6

5. 単価表

(1) 表面被覆工 (塗装工法) 下地処理 1 橋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	1×D	式 4. 1
特殊作業員		〃	2×D	〃
普通作業員		〃	1×D	〃
諸雑費		式	1	表 4. 1
計				

(注) D : 1 橋当り施工日数 (日/橋)

(2) 表面被覆工 (塗装工法) プライマー塗布 1 橋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	1×D	式 4. 2
特殊作業員		〃	2×D	〃
普通作業員		〃	1×D	〃
材料費	プライマー	kg		必要量計上 (注)
諸雑費		式	1	表 4. 1
計				

(注) 1. D: 1 橋当り施工日数 (日/橋)

2. 必要量とは, ロス率を含む。

(3) 表面被覆工 (塗装工法) 下塗り (パテ塗布) 1 橋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	1×D	式 4. 3
特殊作業員		〃	2×D	〃
普通作業員		〃	1×D	〃
材料費	パテ材	kg		必要量計上 (注)
諸雑費		式	1	表 4. 1
計				

(注) 1. D: 1 橋当り施工日数 (日/橋)

2. 必要量とは, ロス率を含む。

(4) 表面被覆工 (塗装工法) 中塗り材塗布 1 層・1 橋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	1×D	式 4. 4
特殊作業員		〃	2×D	〃
普通作業員		〃	1×D	〃
材料費	中塗り材	kg		必要量計上 (注)
諸雑費		式	1	表 4. 1
計				

(注) 1. D: 1 橋当り施工日数 (日/橋)

2. 必要量とは, ロス率を含む。

(5) 表面被覆工 (塗装工法) 上塗り材塗布 1 層・1 橋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	1×D	式 4. 4
特殊作業員		〃	2×D	〃
普通作業員		〃	1×D	〃
材料費	上塗り材	kg		必要量計上 (注)
諸雑費		式	1	表 4. 1
計				

(注) 1. D: 1 橋当り施工日数 (日/橋)

2. 必要量とは, ロス率を含む。